

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年3月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■関係機関連携 中濃地域営農推進会議

中濃地域の農業振興にあたり、関係機関の情報共有を密に行い、懸案事項の解消に向けた協議を定期的に行うため、中濃地域営農推進会議（構成員：関市、美濃市、JAめぐみの、NOSAI、農地中間管理機構、ぎふアグリチャレンジ支援センターおよび中濃農林事務所）を農業普及課が事務局を担い月1回開催している。

3月15日に、今年度最後の会議が中濃総合庁舎で開催され、2～3月の農政動向や農産物の栽培および出荷状況、事業推進状況、新規就農者支援などが協議された。また、年度末にあたり、新規就農者サポートチーム支援活動、スマート農業推進会議やGAP推進に関する今年度の活動についても報告があり、次年度の活動推進に向けた検討が行われた。

農業普及課では、今後も関係機関との連携を密に行い、地域農業の活性化に向けた活動に取り組んでいく。
(地域支援係)

■岐阜県女性農業経営アドバイザー（GLAMA） 中濃ブロック活動支援

3月7日、GLAMAいきいきネットワーク中濃ブロック総会及び退任者講話会が中濃総合庁舎で開催された。総会議事は議案どおりに承認され、総会後に今年度末でアドバイザーを退任される2名から、自身の農業経営やアドバイザー活動の取り組みや思い出、今後の活動などを報告する講話会が開催された。

退任されるアドバイザーから会員に向けて、「役員を務めることは大変なこともあるが、様々な知り合いができ、勉強になることもある、尻込みしないで引き受けてほしい」などのエールが送られた。

農業普及課では、アドバイザーの自主的な組織活動を引き続き支援していく。
(地域支援係)



【講話会】

■農福連携 中濃地域農福連携会議

3月16日、中濃総合庁舎において、農業普及課が事務局を担う中濃地域農福連携会議を開催した。構成員である福祉関係機関及び農業関係機関の14名が集まり、管内における農福連携の状況や課題について、情報交換を行った。

福祉分野と農業分野の異なる立場から様々な意見が出されたり、個別具体的な事例について話し合いが行われたりと、情報や課題を共有する有意義な機会となった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、農福連携が両分野にとってより良い取組みとなるように支援を行っていく。
(地域支援係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 穂肥増量による収量向上の検証

中濃管内では、農業法人や個人農家等が、小麦「さとのそら」を約220ha栽培している。穂肥施用時期は2月下旬から3月中旬であり、収量向上に向けた栽培技術（穂肥増量）を検証している。

昨年10月31日に播種したほ場にて、3月1日に穂肥をブロードキャスターで散布した。試験区では慣行区よりも穂肥を窒素0.8kg/10a増量している。

今後は赤かび病の適期防除の実施や適期収穫について、JAと連携して生産者へ情報提供を行い、良質な小麦生産を支援していく。また、穂肥増量の効果について、収量調査等を行い確認していく。(地域支援係)



【穂肥散布】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ゆず かみのほゆず産地戦略会議

関市上之保地区特産ゆずのブランド力向上を図るため、関係機関による産地戦略会議を組織し、「かみのほゆず産地方針」を定めて取り組みを推進している。

現状の課題としては、隔年結果による収穫量の変動が大きく、また品質の良いゆずの出荷が少ないため、収穫量の多い年は搾汁用のゆずが過多となり、かみのほゆず(株)の経営を圧迫している。

3月15日、かみのほゆず産地戦略会議が開催され、今後の産地方針の推進について関係機関の意識統一が図られた。ゆずの品質を上げる新たな取り組みとして、契約農家の新設と農薬散布圃場の設置について提案があり、関係機関で協議した。品質向上意欲の高い生産者から優先的に買取りを進めることや一部でも農薬使用に踏み切ることに抵抗がある出席者もあったが、現状を変えるために取り組みを進めていくこととなった。

農業普及課では、契約農家に対する重点的な指導、農薬散布に関する助言を行い、かみのほゆず(株)とともに品質の良いゆずが生産できる体制を整えていく。
(地域支援係)



【戦略会議】